



ユニフェム東京 NEWS

Vol.29

NPO法人ユニフェム（国連女性開発基金）日本国内委員会／東京地域委員会

2009. 12. 10

ユニフェム東京設立 10周年記念
チャリティコンサート

東儀秀樹 コンサート

11月8日(日) 午後
日本大学・

カザルスホールで開催！

「もし小さい頃から強制されて雅楽師になっていたら、今の僕はありません。」と自ら言われるほど、奈良時代から続く雅楽を世襲してきた家に生まれ、伝統を受け継ぎつつ現代音楽と見事に融合させて、今や日本の音楽界をリードし、海外からも注目を集めている東儀秀樹氏を迎え、「ユニフェム東京設立10周年記念」のチャリティコンサートが開かれた。以前、ユニフェム東京の五十嵐会長夫妻がカンボジアに滞在した折、偶然に東儀氏と出逢い、ぜひユニフェムのコンサートにと依頼、3年ぶりに実現した。

雅楽の楽器・笙（しょう）、箏（ひちりき）、龍笛（りゅうてき）についての説明に加え、軽妙なトークを挟みつつ自ら手がけたオリジナル曲7曲を演奏。ピアノ、シンセサイザー、ギター等による自らの演奏をバックに雅楽の楽器を演奏するだけでなく、ピアノの演奏も披露された。

雅楽で最も知られる「越天楽」のメロディーに洋楽的な伴奏をつけて編曲したという「越天楽幻想曲」で開演すると、会場中が悠久の宇宙空間に優しく誘われた。雅楽というのはもともと1400年ほど前に大陸から海を渡ってもたらされた文化のひとつで、神や仏に捧げる音楽として尊ばれ、今や日本のみで生きつづけていて、その楽器たちの音色も姿も当初から変わっていないという。「笙」の音色は天から差し込む光を表し、「箏」は地上の音、そして「龍笛」は天と地を行き交うその空間を象徴していて、その



笙の美しい音色が、ホール
いっぱいに響きわたった。
(写真上)



箏の演奏 (写真左)

3種の楽器を合奏するという事は、そのまま宇宙を創るということになる、という雅楽における先人たちの宇宙観も紹介された。さらにその楽器たちの個性や可能性を様々なタイプの曲で披露し、楽しませてくれた。中には氏の子どもたちへの優しい眼差しを感じさせる「I am with you」や、頑張って生きていく子どもたちを思いながらのピアノの即興、それに「枯葉」をモダンジャズ風にアレンジしたりという意外な展開も用意され、バラエティ豊かな内容になった。

最後の曲は中国大陸の楽器の二胡、日本の雅楽の楽器、そして西洋楽器のオーケストラとの編成で編曲された、「トゥランドット(誰も寝てはならぬ)」を演奏。さらに「貧困、心の問題、環境の問題がたくさんある中、その解決には一人ひとりの優しい心があってこそ実を結ぶ。そんな気持ちで作った地球への子守唄」として「地球よ、優しくそこに浮かんでいてくれ」をアンコールに。会場は静寂な中にも感動の坩堝と化した。

また、東儀氏が舞台上からユニフェムの活動に深く共感され、今後の更なる協力を申し出られたことは、関係者一同大変心強く、将来の発展への大きな励みになり、10周年記念にふさわしいコンサートとなった。



大石 芳野氏 (フォト・ジャーナリスト)

「最初は人々の暮らし、文化の違いを知ることが大事とカメラを向けたがその文化を最大に壊すのが戦争…。戦争に巻き込まれていく人間の非力さ、弱いものがなぜ強いものに惹かれ、そちらになびくのか…。停戦し、弾が飛び交わなくなっても、ひとりひとりにとって戦争はなくなる。深く刻まれた傷は癒えない、と同時にまた続いてしまう。だから戦争はよくないと大声で叫びたいが、声が小さいので、写真で少しでも伝えたい。ひとりからひとりへ波紋が広がれば、この体力が続く限り…」と、大石さんは60数枚の写真を繰りながら、熱く語った。



『<不発弾>と生きる 祈りを織るラオス』
の写真集から

日常の中でのとてもつらいことで、どうしてよいか分からない。34年前の戦争、自分も戦後生まれているのに、それから遥かに後に生まれた10歳の娘が不発弾で死んだ。29歳の母親は涙が止まらなかった。

ラオスの冬の早朝は寒く、焚き火で温まってから子どもたちは学校に行く。その焚き火が不発弾の支柱に当たり、爆発し、生命を落とす。私も焚き火によくあたっていた。

クラスター爆弾の子爆弾はボール状のものが多く、34年以上も前のものなので、周りの土の色がついて見分けがつかない。あるとき道を歩いていて、ふと足が止まった。足元を見たら、松葉の中で靴の1センチ前にボール状の子爆弾があった。「不発弾だ!」という、「キャー!」と試み逃げた。私は松葉を除いて、カメラを向け、シャッターを切ったけれど、まさに神が「下を見ろ! 気をつけろ!」と言ったようだった。

クラスター爆弾は、たとえば50回目で爆発するように造られているとすると、49回まで回転していたとしたら、ちょっと動かただけで爆発する。従ってクラスター爆弾は、見つけたところで処理をしなければならない。

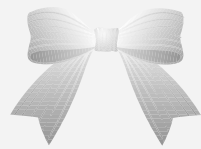
なぜ「祈りを織る」というタイトルをつけたのかは、ラオスの文化の中には、染織もある。女性は一張羅を自分たちで織り、着る。農閑期に織っている人は多い。写真のようにとっても素敵な布を織る。彼女らは余りにひどい不発弾の事故に、地中の悪魔が怒ったかと思っていたようなところもある。恨みようもなく、織る姿はただ「祈りを織る」ように思えた。仏教徒が多いが「地の神」、「天の神」、という自然の中に、ラオスの人々はあるのではないかとも思う。2004年から2008年まで5回ラオスを回りながら、多くを教えられた。

『子ども戦世のなかで』の写真集から

この本は、2005年の刊行で、日本でもここ数年以上前から殺人を含めた子どもにまつわる事件が発生していて、子どもがとてもたくさんいる。これは大人の責任で、私はどうしたらいいのかと思った。止めさせることができたかもしれない戦争に対する責任もどこかにある、戦争は政治の暴力で、大人に責任がある。私たちは暖かい布団の中で横になることができるが、向こうには寝る場所もない人たちがいる。そのことをもっとしっかり考えてみようと思ふ。紛争地を撮り続けてきた。

ヨコの視点でみると海の向こうにこのような人たちがたくさんいる。知らん顔をしているが、私たちはその事実を知っている。タテでみると自分の親も祖父母も第2次大戦を経験している。生命を大事にしたい人まで生命を奪われ、もっとも生きていのに生きられない、元気に外で遊びたいのに遊べない体になってしまう。それは戦争によって…。こうした人々が多くいるような状況を敢えて撮影地に選んで撮ってきた。そういう中で、大人も生命を粗末にしているという感じがする。生命って何だろう? 自分って何だろう? 親って何だろう? 子どもって? 大人って? 何かのときふっと思い出してほしいと思ふ、小さな波紋にでもなればと願って、世に出たのが『子ども戦世のなかで』。

この本の中で子どもたちが紛争の中で苦しんでいる姿をまとめてみた。



心に残る写真から

***ベトナム**…アメリカは1961年から10年間、その後サイゴン軍も枯葉剤をまいたので、かつての深い森が消え、野生動物もいなくなった。1985年の写真だが、草しか生えていない。12歳の子は先天性障害児で、話すことも歩くこともおぼつかない。彼女のこの表情は戦争を怒っていると思う。ダイオキシンは200種類もあり、毒性の強いものを大量に散布した。特に遺伝子を破壊するエイジェント・オレンジという農薬は3世代、4世代も皆同じ症状を招いていると思われる。

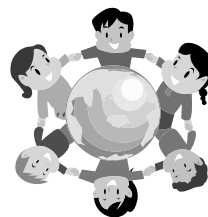
***カンボジア**…ベトナム戦争中の1970～75年は、カンボジア戦争に発展。75年から79年1月まではポルポト時代で地獄のような時代であった。犠牲になるのはいつも子どもで、殺されたり、病気になったり、餓死したり生命を落とす。

79年ポルポト政権がつぶれて、タイへ難民が流出。タイの難民キャンプでは、苦労を重ねた母親が、未熟児を産んだ。

***コソボ自治州**…セルビア武装勢力がアルバニア系の人々を叩き潰した。ある町では70%が破壊され、樹木や電線はそのまま家だけが潰された。憎しみからなのかと暗たんとなった。キリスト教徒もイスラム教徒も関係なく、民族浄化といえるものだった。学校を訪ね「家族を殺された人?」と聞くと、「お父さんが…」と試み、その子の目から涙があふれた。家族を守った父親は、顔を7発も打たれたという。

★ 2010年 第6回 [升本 美苗基金助成金]授与の団体が決定!

スリランカ/トリンコマリの裁縫センター設立資金として、2007年に助成した「NGO TECHJAPAN (テックジャパン)」が2回目の助成を受けた。紛争下の中での難民女性が裁縫を学び、技術を向上し、自立に成果を収めている地道な活動を評価した。今ではヨーロッパから赤ちゃんグッズ、日本からはショッピングバッグ・ブックカバー・箸ケースなどの注文があり、日本からの注文が唯一励みになっているという。



認定NPO法人ユニフェム日本国内委員会主催
ドメスティックバイオレンスに「ノー」と言おうキャンペーン

8月28日(金)の午後、東京ウィメンズプラザで「DVのない明日に向けて」と題し、エイボンプロダクツ株式会社より基金による助成金の贈呈式と、記念講演会が行われた。テレンス・ムアヘッド社長から、「エイボンレディの皆さんの力でエイボン・エンパワメントプレスレットが販売収益(560万円)を得ることができ、その基金をユニフェム国内委員会に寄付したい。DVの撲滅に活動する9団体(日本キリスト教婦人矯風会ほか)に贈り、更なる事業を展開することを望みます。」と挨拶があった。

第2部では、「配偶者暴力防止法および関連する施策について」内閣府男女共同参画局推進課長より防止法の改定や、全国に190カ所の支援センターの設置、被害者の自立支援、裁判所が配偶者に発する保護命令制度(接近禁止命令、退去命令、電話等禁止命令)等の説明があった。第2部の後半に作家の落合恵子氏による「誰も犠牲にしない幸福…崖っぷちからの生還」と題しての講演があった。



2010年度 ユニフェム東京総会のお知らせ

日時 2010年2月4日(木)
13:00 ~ 16:00
会場 婦選会館 2F会議室
(JR 新宿駅南口下車5分)
第1部: 総会
第2部: 講演 「アフガニスタンの平和は、世界の平和につながる」(仮題)
講師 駿溪 (するたに) トロペカイ氏
(「希望の学校」代表、お茶の水女子大学開発途上国
女子教育センター客員助教授)

2001年のニューヨークの同時多発テロからアメリカの激しい空爆、タリバン政権の崩壊、更なる内戦。ユニフェム日本がアフガニスタンの女性の自立を支援して7年。成人女性の識字率5%へ挑戦する駿溪さんから、アフガニスタンの現状を併せうかがう。

ユニフェム東京
事務所から ニュース!

「10周年記念誌」編纂作業進む!



来春発刊予定の記念誌の編纂作業が進んでいる。「5年史」にその後の5年を加えてA5版で持ち歩き、新しい情報も満載。

ユニフェム東京 第15回チャリティコンサート



友納 あけみ
～ シャンソンのタバ ～
ワイン付き



日時 2010年6月27日(日)
18:30～

会場 ムジカーザ (MUSIKASA)

(小田急線・代々木上原駅下車2分)



☆ ご入会・ご寄付をいただき有難うございます。

新規会員

松本 典子
山脇 和子
山脇 裕子

寄付者

松本 典子
雨宮 祥子
芦月 桂子
高野 博子

活動寄付者

松比良 節子
阿部 幸子
飯尾 美甫
中村 道子
匿名希望 (2名)



2009年10月31日まで (敬称略)

【編集後記】

★4月のオバマ大統領の「核軍縮演説」を思い起こし、プラハの秋の石畳を歩いた。世界遺産の街で、新しい時代を切り開く演説が、破滅的兵器の広がり王手を掛けてほしいと願いつつ…。ハンガリーのブタベストでは、ユダヤ教教会の裏手にゲッターの跡もあり、中欧の民族紛争の根っこに長い民族浄化の歴史が横たわる重い課題を突きつけられた。(T)

ユニフェム東京NEWS 第29号

発行人 : ユニフェム東京会長 五十嵐康子
発行日 : 2009年12月10日

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-23-1
ニューステートメナー331
Tel&Fax 03-6228-0029

郵便振替:00190-6-5508800
<http://www.unifemtokyo.org>